

大正末期、「数研出版」の母体となる教育事業体「数学研究社高等予備校」が創設され、1923 年（大正 12 年）に出版事業の原点となる雑誌「受験数学」が創刊となりました。

以来 100 年に渡り、日本の教育振興に寄与すべく、数研出版は歩みを続けて参りました。中学校の教材を発行するようになったのは数研出版にとってまだ新しい歴史ですが、それでももう 20 年の月日が経過しています。数研出版 100 周年を機に、中学校の教材発行の歴史をたどってみたいと思います。

1. 中学校版の Studyaid D.B. の発行

中学校用に最初に発行されたのは書籍教材ではなく Studyaid D.B. でした。

1996 年に大学入試版の Studyaid D.B. が発行となりましたが、その 3 年後、高校入試問題を収録した Studyaid D.B. 中学数学データベースが発行となっています。初回の 1999 データベースは、4 年分の入試問題を収録したボリュームのあるものでした。

その後、プリント作成のシステムは毎年、先生方のご意見を取り入れる形で進化し続け、いまに至ります。関数式の入力なども初期の頃から比べるとかなり簡便になりました（図 1、図 2）。

この当時、数学の教材中の文章はコンマ（,）とピリオド（.）を使うのが一般的で、Studyaid D.B. のデータもすべてそうしていました。ある年にすべてのデータのピリオドを句点（.）に変更しましたが、かなり混乱した覚えがあります。いずれコンマを読点（.）に変えるときがやってくるのかと戦々恐々としています。

余談となりますが、2001 年から 2005 年の間、中学英語版の Studyad D.B. も発行されていました。いまは社内でも知る人が少なくなった、激レアの一品です。

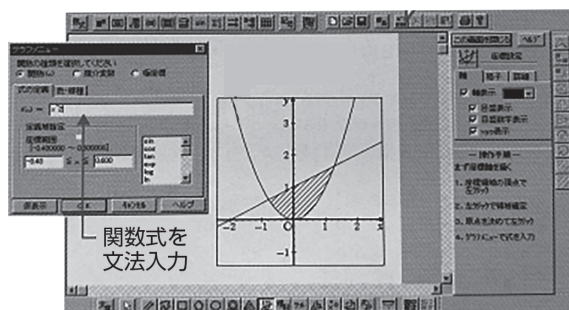


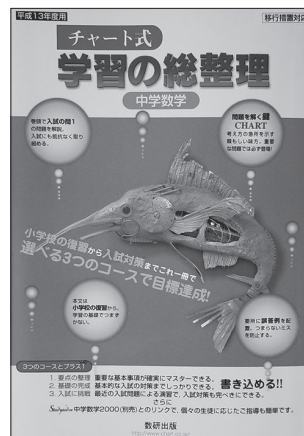
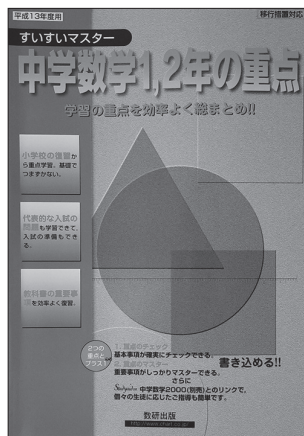
図 1 1999 年当時の関数グラフの作成画面



図 2 現在の関数グラフの作成画面

2. 高校受験用教材（数、英、国）の発行

Studyaid D.B. 中学数学 1999 データベース発行のすぐ後に、高校受験対策用に中学3学年の内容をまとめた教材「すいすいマスター 中学数学」、「チャート式 学習の総整理 中学数学」の2シリーズが発行となりました。それぞれ、年を追って英語、国語にも展開しましたが、発行当時は「数研」が発行する英語、国語の教材というものに違和感を覚える先生方も多くいらっしゃいました。



残念ながら旧課程を以ってこの2シリーズとも絶版となってしまいましたが、いずれも数研出版の中学教材の歴史を語る上では欠かせない書籍となっています。

3. 検定外教科書「体系数学」の発行

2002年より実施された中学校学習指導要領では、中学3学年の合計単位数が9となり、「2次方程式の解の公式」「球の体積・表面積」といった内容を中学校で学ばなくなるなど、学習内容に対する不安が広がりました。

こうした中で企画された「体系数学」は、学習内容の不足を補いつつ、「1次方程式と1次不等式をひとつながりで学ぶ」「比例と1次関数をひとつながりで学ぶ」というように配列のくふうも行い、「体系的な数学内容の理解」を目指すものでした。

主に私立の中学校・高等学校で使われる教材ではありますが、ここで「体系数学」を発行した経験は、次のステージである教科書発行に確かに生きています。



4. 教科書発行へ

そうした活動を10年間ほど続けたのち、いよいよ中学校数学の検定教科書発行に踏み切ることになります。これについては次号でご紹介できればと思います。

現在、100周年記念サイトを公開中です。
ぜひそちらもご覧ください。

「数研出版100周年記念サイト」

100周年を記念してサイトを開設！

<https://www.chart.co.jp/100th/>

